

令和7年度 江別市立野幌中学校 学校経営グランドデザイン

法令や学習指導要領

<教育基本法>

「教育は人格の完成を目指す」

<学習指導要領>

「知識や技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や豊かな人間性を育成」

北海道教育推進計画

基本理念

「自立」

「北の大地で世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む」

「共生」

「ふるさとへの誇りと愛着を持ち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む」

野幌中校区【目指す子ども像】

夢に向かい 行動する子

学校教育目標

理想の実現を目指し、気高く生きなん

- ◎ 自ら学び 粘り強く 課題を追求する生徒 【知】
- ◎ 広い視野を持ち 思いやりあふれる生徒 【徳】
- ◎ 生命を尊重し 心身ともに健康な生徒 【体】

令和7年度重点教育目標

夢を持ち、トライ＆エラーをし続ける生徒の育成

～「自己決定」「自己表現」「振り返り」を重視した教育活動を通して～

石狩管内教育推進の重点

テーマ「子どもの未来保障」

～全ての子どもに資質・能力を育成する質の高い石狩の教育～

- 重点1「資質・能力を育成する授業改革」
- 重点2「質の高い教育活動を推進する学校組織マネジメント」
- 重点3「地域の創り手を育成する持続可能な教育体制」

江別市の学校教育が目指すもの

【目指す子ども像】

「夢を持ち、夢を語り、夢の実現に向けて行動する子ども」

生徒の実態

- 安定した地域・家庭環境に支えられ、集団生活や学習に意欲的である。
- 素直で優しく思いやりがあり、進んで人間関係を構築できる生徒が多いが、自分の考えや意見を表現することに苦手意識のある生徒が一定数いる。
- 物事に対して自ら向き合うことはできるが、粘り強く取り組む姿勢や逆境に負けない心身のたくましさの面で課題がある。
- 学習の習熟度は高い傾向にあり、言語的な情報を活用・表現する力に優れているが、データの活用で課題がある。

スローガン:みんなで持とう「野中プライド」

育成を目指す生徒の資質・能力【生きる力】

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
自ら理想の実現を目指し 気高く生きなん 【意】	①自己を見つめ、夢や目標を持ち、実現に必要な力や、「今」何をすべきかを理解している。	②夢や目標に向かってトライ＆エラーを繰り返しながら前進する。	③様々な経験を生かし、新たなことに挑戦する。
自ら学び粘り強く 課題を追求する子 【知】	①教科等における基本的な知識や技能が定着している。	②精査した情報を基に自分の考えを形成し、表現し振り返る。	③自らの思考過程を客観的に捉え、持続可能な社会を探究する。
広い視野を持ち 思いやりあふれる生徒 【徳】	④あいさつや時間を守る基本的な生活習慣が、身に付いている。	⑤多様な考えを理解し、集団としての考えを形成する（合意形成）	⑥芸術文化を味わい、多様性を理解し、平和な社会を希求する。
生命を尊重し 心身ともに健康な生徒 【体】	⑦基本的な運動技能や集団行動を身に付け、自ら体を動かす。	⑧命を大切にし、楽しみながら仲間とともに運動する。	⑨健康な体を維持し、地域社会に貢献しようと努力する。

<成果指標>=生徒アンケート項目	R5（7）	R5（12）	R6（7）	R6（12）	R7（7）	R6（12）
① 学校は、分かりやすい授業になるための工夫・改善を行っている。	93.4%	94.4%	96.2%	96.0%		
② 学校の雰囲気がよく、楽しく学校生活を送っている。	88.8%	88.1%	89.4%	90.8%		
③ 学校では、自主的に、きちんとした学校生活が送れている。	97.3%	95.0%	97.6%	95.8%		

学校経営の重点

1. 系統的な指導・支援による「主体的態度」の育成（小中一貫教育）

【基礎・基本の定着→計画性のある自主的な取組→自走する主体的な取組】

2. 「自己決定」「自己表現」「振り返り」による
自信を持ち、粘り強く挑戦する態度の育成

【粘り強さや逆境に負けない心身のたくましさの向上】

3. 「トライ＆エラー」を安心してできる集団の育成（野中プライド）

【・自己存在感の感受・共感的な人間関係・自己決定の場・安全安心な風土の醸成】

「生きる力」等に基づく重点

- I. 知の形成【対話を重視した学びによる思考力の向上】
「学問の楽しさを知り、主体的・自主的に学ぼうとしている」
- II. 徳の形成【いじめを生まない学校づくり】
「より深く考えることに価値を持ち、他とともによりよく生きようとする」
- III. 体の形成【心身の健康】
「意識させ、行動を習慣化し、粘り強く取り組ませる」
- IV. 落ち着きうるおいのある教育環境
・職場環境（環境）【超勤の縮減】
「居場所づくり・絆づくり」

重点とする具体的な取組

重点1「学習指導の充実」

- ①対話を重視した主体的な学びによる思考力・表現力の向上
 - ・対話を通して生徒自身が課題意識を高め、主体的に学び、活用する力、思考力を高める授業の工夫
 - ・生徒の意欲につながる、わかる授業の工夫
- ②ICT等の効果的な活用による基礎・基本の定着と価値交換による関連性を見出す力の育成
 - ・ICT等を有効活用し、自身の考えをまとめ、他者との価値交換を行う場面の設定
 - ・AIドリル等の活用による家庭学習の習慣化
 - ・ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

重点2「生徒指導の充実」

- ③生徒や保護者とのリレーションを意識した相談活動の充実
 - ・いじめや生徒指導課題の未然防止と早期発見・解消
 - ・自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高め、生徒自ら夢に向かって物事に当たるための支援
- ④生徒の社会的な自立を目指した不登校生徒支援の充実
 - ・持続可能な支援体制（組織）づくりと、必要性に応じた運営・活用
 - ・関係機関との積極的な連携や推進、きめ細やかな対応

重点3「特別活動等の充実」

- ⑤生徒の主体的な活動とウェルビーイングを高める活動の充実
 - ・「野中プライド」の育成と「トライ＆エラー」を意識した委員会活動の充実
 - ・ボランティア活動などの社会貢献を通して、お互いを尊重し合える生徒の育成
 - ・「見える・聞こえる」生徒会活動の工夫
- ⑥自己有用感・所属感・連帯意識を高める行事の工夫
 - ・自己理解、他者理解を深め、認め合える活動の充実
 - ・自己肯定感を育む人間関係づくりと自己表現ができる環境づくり

重点4「チーム野中の推進」

- ⑦複雑化・多様化する課題に適切かつ迅速に対応するため、教員間での「情報の共有」「目的の共有」など、コミュニケーションの充実に取り組む。
- ⑧「時間のゆとり」「心のゆとり」を生み、自らの専門性を最大限に発揮するために、校務分掌、業務内容や進め方の見直し、メンタルヘルス対策等にも取り組み、北海道アクションプランを基に「働きやすさ」と「働きがい」のある職場づくりを目指し、ウェルビーイングの向上に繋げる。
- ⑨野幌中学校区小中一貫教育の目指す子ども像、『夢に向かい行動する子』を目指し、義務教育9年間を見通した、系統的で質の高い教育活動を中学校がリードしながらより一層進める。

自己有用感を育むために家庭、地域、学校が一体となった取組

<家庭の協力>・環境整備活動・交通安全指導・地域交流会（PTA活動）、望ましい生活習慣の確立、えべつスマート4ルールの徹底（家庭との連携）など
<地域の協力>・「社会に開かれた教育課程」を踏まえた、学校運営委員会（CS）における協議や連携、協働など